

令和6年度 兵庫県立村岡高等学校 学校評価（最終評価）

評価は4点満点。「よくできた」を4点、「できた」を3点、「あまりできなかった」を2点、「できなかった」を1点とし、回答した教職員の平均点を評価の数値とした。

評 価 項 目		R6 評価	評価と改善プラン	学校関係者評価
I 地域との協働、家庭との連携による教育活動の充実				生徒数の減少、但馬全体の定員割れは大きな課題。生徒の取り合いが起こっている。村岡高校の魅力を発信していくことの限界もある。具体的解決策を打ち出さねばならないフェーズにある。
1	P T Aや家庭との連携により生徒理解を進め、生活指導や進路指導に生かしている。	3.2	P T A役員をはじめ、多数の保護者の方にマラソンのボランティアスタッフに参加いただくなど、学校の取り組みに、協力をいただいている。今後も、連携して学校行事等の活動を盛り上げていきたい。	
2	ホームページや学校通信等により、地域へ適切に情報発信している。	3.5	「村高だより」やホームページ「村高ライフ」等を通して、地域への情報発信ができた。より利用しやすいホームページを目指して、リニューアルを予定している。	
3	地域資源（環境資源・人的資源）を積極的に活用し、教育活動の充実を図っている。	3.7	学校設定教科「地域探求」「総合スポーツ学」「表現」や「総合的な探究の時間」等において地域資源・地域人材の積極的な活用により教育活動が充実したものになった。さらなる地域資源の有効活用を模索していくことが重要である。	
4	関係機関や大学との連携により教育活動を活性化し、生徒の多分野への興味・関心を高めている。	3.5	町行政・大学・地域団体等の連携はもちろん地元の小中学校・特別支援学校との交流授業を通して生徒の興味・関心を高めることができつつある。さらなる連携を通して「ふるさと教育」の充実を図っていきたい。	
5	地域を学びの場とすることで、生徒の地域への理解を深め、ふるさと意識を醸成している。	3.3	地域協働活動を通して経験値を高めたと生徒・保護者の97%がアンケートに回答しており、概ね成果を挙げている。今後も継続して取り組む必要がある。	
II 主体的な学び、確かな学力の定着等				地域創生班の発表内容がよかった。自分たちを相対化している点で素晴らしい。村岡高校の注目度は高まっている。自分たちの活動を客観視しているこの活動はすごかった。客観視を通して自分たちの力を見つめることが出来る。しっかりと続けて力を伸ばしてほしい。この学校は地域で学ぶことが強み。授業と実態とのすり合わせが力を伸ばす。これは簡単なことではない。高校生レベルで実現できる教育内容をこれからも模索すべし。生徒数についてはもう仕方がない。但馬全体で減っていくのは仕方がないこと。中身で勝負すればよい。ターゲットを県内に絞って呼びかけてはどうか。
1	少人数・習熟度別授業、ICT機器の活用等により、授業の充実を図っている。	3.7	各教科において主体的・対話的かつ深い学びの実現のために計画を立てて取り組めた。引き続き「生徒に身につけさせたい力の涵養」を柱とし、より良い授業の展開に向け職員全体で力を尽くしていく。	
2	学校設定教科・科目は、地域と協働する探究活動として、生徒の「考える力」「行動する力」「伝える力」を育成している。	3.3	「自ら問いを立て、その解決に向け行動できる生徒」の育成を主眼としており、「地域に学ぶ村高生」の確かな姿が見受けられた。今後は、ここまで行ってきたことや身につけた力を軸とし、それをいかに「活用」させるかにも眼差しを向けさせたい。	
3	総合的な探究の時間は、地域貢献だけでなく、生徒の協働する力やコミュニケーション力を育成している。	3.5	地域協働活動を高める教育活動を一層推進していきたい。また生徒が主体的に活動できる携帯への改編を行った。今後さらなる充実を図りたい。	
4	教科、学校設定教科・科目、総合的な探究の時間は教科横断的な側面を持ち、アクティブラーニングとなっている。	3.0	ベアワークやグループワーク、相互評価などにおいて主体的に学びを深めようとする生徒の姿が見て取れた。各教員が教科横断的な学びの可能性を見だし、授業改善に繋げていけるよう、公開授業並びに研究授業をより充実したものにしていきたい。	
5	学校設定教科・科目、総合的な探究の時間は、その活動をまとめたプレゼンテーションを行い、汎用効果を高めている。	3.5	学習活動の評価となるプレゼンテーションを村高フォーラム・総合的な探究の時間等で行うことにより、評価・改善を行い、成果をあげている。さらなる充実を目指したい。	町の補助金は今後も協力させてもらう。学校独自の広報活動にご利用ください。 社会人講話は地域内の魅力的な仕事を高校生に知ってもらえる、将来の選択肢になることはとても良いこと。来年も続けてほしい。就職で公務員が今年はいないのがちょっと残念。地元就職はうれしい。鳥取大学進学の子が、将来的に香美町に帰って働きたいと言ってくださっているのがうれしい。
6	特別な配慮を必要とする生徒への対応を行っている。	3.5	面談や通級による指導の実施、サポート会議での支援の検討、「個別の記録」を活用した考査ごとの生徒情報の共有等を実施し、非常勤講師への情報共有もできた。支援方法の見直しやよりよい方法の選択がより適切に実施できるように工夫していきたい。	
7	学校行事は生徒の経験値を高め、達成感を涵養し、自己有用感を高めるものとなっている。	3.5	学校行事によって高校生活が充実していると生徒の96%・保護者の94%がアンケートに回答しており、自己有用感を高めることに至っている。今後も生徒会を中心に継続して取り組むことが望まれる。	
8	教科学習を含めた3年間の学びを、進路実現に繋げている。	3.0	類型や総合的な探究の時間の活動から得られた知見を進路実現に繋げることができた。希望者への補習や業者模試の振り返りを通じた教科指導の更なる充実を図ってきたい。	
9	学校教育活動全般において、グラデュエーション・ポリシーにおいて育成を目指す能力の充実に取り組んでいる。	3.1	今年度より「村高発★地域元気化プロジェクト」を4班に再編し、より探究的な活動ができたと考えられる。高校時代だけの一過性の活動にとどまらず、卒業後の進路実現、卒業後の人生に生かせるようにさらに取組を深めていきたい。	
10	【1年】基礎学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ力を育む。	3.2	小テストやグーグルクラスルームによる課題配信、週末課題等を通して基礎学力定着や学習の習慣化を目指してきた。模試の見直し等を通して更に学力の向上を図ってきたい。	地域創生班すごい。新しいヒントがあった。いかに地域の方々に村高のことを知ってもらうかが生き残りをかけた重要な取り組みだと思う。村高に入ってよかったなど思えるようにしっかり育てるのが大事。
11	【2年】進路実現に向けて、自己理解を高める指導を行う。	3.2	学級担任による面談や、外部企業を招き、進路実現に向けた講話などを聞く体験を通して、生徒自身が自分の将来を考えることができた。また、一分間スピーチを実施することで、自己理解を深めることができた。	
12	【3年】学校生活で得た知識や技能、経験をもとに自身の考えを積極的に発信し、進路実現に繋げる。	3.3	年度当初から志望理由書の記入等を通じて、進路実現に向けての意思を固めさせてきた。類型や総合的な探究の時間の活動から身につけた力を自覚させ、自信をもってPRできるように指導を行った。反省点としては、具体的な評価指標を設定しなかった点があげられるので、今後は明確な評価指標を設定して指導に当たりたい。	
III 人材の育成について				
1	生徒面談や「いじめアンケート」等を通して生徒の実態を把握し、学校生活を円滑に送れるよう適切な指導を行っている。	3.5	日常的な生徒観察はもちろん面談やいじめアンケートにより生徒実態の把握に努めている。さらには教職員間の情報交換を密にし、組織的な対応による指導の強化に努めたい。	
2	教育相談や生徒面談を行い、生徒一人一人の理解と情報共有に努めている。	3.6	日常的な生徒観察・教職員による情報交換を行っている。また教育相談委員会（週1回）での定期的な情報共有、キャンパスカウンセラーのこころの健康相談等により予防的カウンセリングに努めている。今後継続して取り組みたい。	生徒がしっかりと発表できていた。自分の高校の特徴を知るといことは実は難しい。地域創生班の取り組みは重要な視点だった。大人とコミュニケーションが取れる機会が多く、成長にとてもよく影響していると思う。こうした魅力は伝わりづらいが、しっかりアピールを。授業理解度については、高いと思う。先生方の努力が伝わる。授業研究を組織的に行っているのはとても良い。高校は教科の壁が高くなかなかそれを超えようとしにくい。これを超えて意見し合えるのは村高の良さだと思う。若手も多いので、続けるべき。
3	学校教育活動全般（生徒会活動、部活動等を含む）は、生徒の責任感やリーダーシップ、思いやりなどを涵養している。	3.4	一部の活動的な生徒に関しては、生徒会活動や部活動等を通して、責任感やリーダーシップなどを涵養できている。全ての生徒に対して、役割を全うし、責任感を涵養する場を作ることが課題である。	
4	【健康・安全教育、防災教育】保健だよりや救急救命講習などを通して、健康や安全に対する意識を高めている。	3.4	保健だよりでは、学校の保健活動や地域の保健情報を発信し健康安全への意識を高めた。また薬物乱用防止や救急救命の講習会を行い、生徒が主体的に判断し行動できる力を培った。今後も生徒の実態に応じた取り組みを実施していきたい。	
5	【社会人キャリア教育】家庭科等の授業や地域人材による授業、外部講師による消費者教育、ライフプランニング講座を通して社会参画への意欲を育成する。	3.4	地域人材による授業や外部講師による各種講座等により、社会参画への意欲・関心の育成に繋がられている。	
6	【1年】HR活動、学校行事、地域協働活動などを通して、互いを認め理解し合う人間関係を育てる。	3.4	生徒アンケートで村岡高校に入学してよかった、他者に思いやりを持つ雰囲気があるという項目の数値が高いので、このまま維持できるようにサポートしていきたい。	
7	【2年】自分の言葉で自分を表現できるコミュニケーション力を育成する。	3.2	探究活動や学校行事を通して、適切な言葉遣いや多様な表現を身に付け、他者との関りを円滑にするためのコミュニケーション能力を身に付けることができた。	
8	【3年】リーダーシップと社会性を持った人材を育成し、新たな挑戦を促す。	3.2	学校行事、総合的な探究の時間等では、活動の中心となって活躍する姿を多くの生徒が示してくれた。地域の方々との協働活動においても村高生としてふさわしい姿を示せたと感じている。反省点としては、多様なリーダー像や理想的な社会性を学べる講話等の機会を増やすべきであった。	
教育指針				
人みな使命あり				
スクール・ミッション				
「人みな使命あり」の理念のもと、課題発見・解決能力、プレゼンテーション能力、新たな価値を創造する能力、コミュニケーション能力、議論する力、コーディネート能力、自己表現能力を備え、創造的に地域と協働する人材を育成する。				
スクール・ポリシー				
(1)グラデュエーション・ポリシー				
① 目指す人物像：地域を学びのフィールドとした高校生活をとおして、創造的に地域と協働できる人物 ② 地域との協働に必要な3つの力Ⅰ「考える力」：課題発見能力、課題解決能力、新たな価値を創造する能力 ③ 地域との協働に必要な3つの力Ⅱ「行動する力」：コミュニケーション能力、コーディネート能力、議論する能力 ④ 地域との協働に必要な3つの力Ⅲ「伝える力」：プレゼンテーション能力、自己表現能力				
(2)カリキュラム・ポリシー				
① 個別最適な学びⅠ：少人数・習熟度別による授業、ICTの活用 ② 個別最適な学びⅡ：特別な配慮を必要とする生徒への対応「替える学習」「加える学習」 ③ 個別最適な学びⅢ：「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の蓄積 ④ 地域と協働した学びⅠ：村高発☆地域元気化プロジェクト、全校スタッフ ⑤ 地域と協働した学びⅡ：村高だけの学校設定教科・科目「地域協働活動」「地域探求」				
(3)アドミッション・ポリシー				
① なにを？：村高の授業をとおして高めた経験値を活かして、進路実現する意欲のある人 ② だれと？：多様な仲間とともに、豊富な特別講師や地域の人と協働して学ぶ意欲のある人 ③ どこで？：村岡の大自然豊かな地域全体をフィールドとして学ぶ意欲のある人				